



2014 ▶▶▶ 2021

フォトストーリー
 撤去中の旧橋に様々な年代の市民が集まり、いろいろな表情を撮影。新しい橋が完成した時に、再び橋の上に集まり撮影。旧橋と新橋を繋ぐ時間の移り変わりを、写真を通じて楽しむというタイムワープを意識した取り組みを実施しました。

アーティストの観点から橋づくりに関わりました。魚群描きや、旧橋と新橋で同じ人を撮影し歴史を写真で表現するなどの活動をしてきました。地域と行政、アーティストが一体となって取り組めた、とても貴重な体験でした。



フォトグラファー 川島俊紀さん

2015~

ストリートフェスティバル
 小戸之橋の架け替えを地域活性化に繋げようと、地域住民が中心となり取り組み始めた「小戸之橋ストリートフェスティバル」。旧橋が完全に撤去された平成27年度に、新しく生まれ変わる小戸之橋を、「待つだけのじゃつまらない」という心意気で、赤江地域まちづくり推進委員会を中心に、地元の商店主も賛同してさまざまな企画を毎年継続して実現してきました。



クイズを解いてくじ引きに挑戦する「小戸之橋子どもクイズ!」。



アーティストと店主がコラボした画期的な「ポスター展」。



ストリートフェスティバルオープニングイベント。



新小戸之橋の模型をスコープでのぞきながら専門家の話を聞く「小戸之橋ラボ」。



市民の皆さんからの挑戦を求める「小戸之橋検定試験」。



作業中の工事現場を案内する見学ツアー。

2021.4.3

新小戸之橋完成

新しい橋の北側橋詰ひろばには「小戸之橋とあゆみ」(上流側)、「小戸之橋のまなび」(下流部)のデザインボードを設置しました。橋の親柱に設置された橋名板の各題字は、地域の児童が書きました。

橋名板



権藤和孝さん (宮崎小学校)

秦ののかさん (潮見小学校)



梅田真梨桃さん (赤江小学校卒)

古川祐里恵さん (恒久小学校)

デザインボード



小戸之橋とあゆみ



小戸之橋のまなび

2014



アーティスト有志が旧橋に描いた魚の大群。

魚群アートワークショップ



新しい橋に地域の子どもたちが参加して魚群を描いたワークショップ。

宮崎市で活動しているアーティスト有志が20人ほど集い、橋面を巨大なキャンバスと見立て、旧橋への感謝と別れ、そして新橋に向けた期待を含め、実物大のクジラを主役にした海の生き物を橋面上に描きました。旧橋が完全に撤去される工事着手前に1日だけ一般公開も実施。それから約6年後、舗装を控えた新橋橋面上で、再び当時のアーティストが参加し、「小戸之橋との再会(希望)」をテーマに、家族となつて帰ってきたクジラや魚たちを描きました。新橋では、地域の子どもたちも一緒にたくさん魚を描きました。

2020



新しい橋の魚群アート全景。



工事現場を地域住民が見学し、理解を深めて協働。

17 パートナースHIPで目標を達成しよう
橋の架け替え工事を地元住民とアーティスト、行政が手を取り合い、地元愛を育む

橋の架け替え工事は行政が単独で進めることがほとんどですが、今回は地元住民やアーティスト、行政が協力し合い、「橋の架け替え」を一つのイベントととらえました。これまでのさまざまな取り組みを通して、地元の歴史や良さに気づくとともに、より愛着が深まるなどの効果を生み、橋は無事に開通の日を迎えることができました。



持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals = SDGs) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。宮崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています